

## あゆみ調剤 総括集会を開催しました

去る3月4日、第12回株式会社あゆみ調剤総括集会が開催されました。

毎年恒例となったこの総括集会は、1年間の活動を全職員で振り返り、達成できた取り組みや来年度以降の課題を共有する大切な時間となっています。

今回は奈良県から研修中の薬剤師と協立病院薬局の薬剤師や、釧路で実習中の薬学生を含めた10名の参加でした。

初めに山下社長から、「薬局をめぐる動向とあゆみ調剤の今後について考える」という表題で、かかりつけ薬局や健康サポート薬局、薬剤師確保等についての問題提起を受けた後、参加者から5つの演題発表がありました。職場づくり、安全性や質の向上、かかりつけ薬局の活動、薬薬連携など日々の活

動を振り返りながら、質疑応答で中身を深めました。

奈良県から研修中の薬剤師と、実習中の薬学生からも特別報告を受けました。



最後に、八木薬局長からの講評を受け、来年度も民医連加盟の保険薬局としての役割を果たしていくことを確認しました。

同日の夜には交流会も開催し、集会では語りきれなかったことなどを深め合う場となりました。

(事務：藤原 剛史)





## ステロイド



みなさんは「ステロイド」と聞いて何を想像しますか？

皮膚科でもらう軟膏？ スポーツ選手がドーピングで使う薬物？

どちらも正解です。そもそもステロイドは、動物の体内で分泌される物質「ホルモン」の一種です。ステロイドホルモンは、細かく何種類にも分かれていますが、炎症を鎮めたり、血糖を上げたり、血圧を上げたり、はたまた筋肉をモリモリにしたり、さまざまな生理作用を持っています。

1949年、米国の医師・ヘンチが、動物の副腎皮質から抽出されたステロイドホルモンの1つ「コルチゾン」を、寝たきりの重症リウマチ患者に注射したところ、嘘のように動けるようになり、「患者に福音がもたらされた」と称されました（ヘンチら3人の学者は、翌年、その功績でノーベル賞を受賞）。

その後、人工的に作用を強めた多種多様なステロイド薬が開発され、臨床で用いられるようになりました。リウマチ以外にも、皮膚炎を治し、喘

息発作や吐き気を鎮めたりと、その適応範囲は非常に広く、内服薬のほか、軟膏、点眼薬、吸入薬、注射薬と、いろいろな剤形で使用されています。

はるか薬局にある薬では、プレドニン錠、リンデロンVG軟膏、フルタイド ディスカス(吸入薬)、などが挙げられます。

しかし、薬は「諸刃のつるぎ」です。ステロイド薬も、優れた作用を持つ一方で、胃に炎症を起こす、感染症にかかりやすくなる、などの望まない副作用が起こることもあります。(現在ではリウマチ治療の主役の座は、メトトレキサートなど新しい薬に移り替わっています)。



ステロイド薬に限りませんが、薬は、副作用を起こしづらく、なおかつ効果を最大限に発揮するように使い方が決められています。指導された使い方を守り、正しく使いましょう。

(薬剤師:岡部 正史)



## 初マラソン完走!

晴天に恵まれ、気温もあたたかく、春を感じる3月19日、白糠町で開催されたマラソン大会「白糠ロードレース」に参加してきました。



人生初5km走に挑戦。地元の皆さんの声援と、10kmを完走した仲間の声援が力となり、無事に完走することが出来ました。



完走後は、しばらくたてのホットミルクが喉をうるおし、皆で完走の喜びを分かち合いました。とても自信がついた初マラソン。次は、10km完走を目指します。

(用務員:坂本 沙織里)

## ✧「太陽の蓋」上映会に行ってきました✧

忘れてはいけないことでも、記憶から色あせていくことがあります。映画「太陽の蓋」は、「福島を忘れない」…今日まで幾度も目にしたこのフレーズを知らず知らず風化させていた自分に気づかせてくれました。東日本大震災は未曾有の天災でしたが、それと同時に起きた原発事故は隠された情報と経験が無いための錯綜の中で、誰もが見えない不安と恐怖に震えた人災でした。

物語は、新聞記者の目線と、官邸側の目線で交互に進行し、「あのとき何が起きていたのか」が語られていきます。劇中でフクイチから煙が上がったとき、当時の私もSNSで必死に情報をかき集めていた記憶がよみがえりました。いくら情報を集めても、人類が作り出してしま

った怪物相手になすすべも無く、状況を見守るしか無かった。これまで被災者目線でのドキュメンタリーなどはいくつか観ましたが、「太陽の蓋」は当時の官房副長官側にも綿密な取材をした上で政府側からも描かれ、精巧に作り込まれた劇場用のエンターテインメント作品です。

しかし最後のシーン、フクイチの若い作業員が事故から5年経った福島で「あのとき、日本中でテレビを観ていた人たち、今はどう思っているんですかね…」とつぶやいたその言葉は、現実の世界で今なお収束作業に当たっている作業員、避難を余儀なくされている東北の人びと、被災者全員から私たちに投げかけられているのです。

(事務:菅原 理恵)



## 【アーサー・ビナード講演会】

# アメリカ人が原爆ドームから 盗み聞きした“核心の話”

〈3.11 さよなら原発1000万人アクションin釧路集会に参加して〉

東日本大震災で福島第一原子力発電所事故が発生してから6年が経過した3月11日、釧路市民文化会館の小ホールでアーサー・ビナード氏の講演会に参加しました。

アーサー・ビナード氏は、アメリカ合衆国ミシガン州生まれ。日本に在住し、各地で憲法を守るお話や原子

力の危険性などを語る詩人・俳人・随筆家です。

お話の内容は、極めて多彩。22歳で初めて日本語と出会い、日本語を学ぶ中で日本の文化や政治に精通。

「詩人の目から見た」日本の原発政策や「駆けつけ警護」などをウィットに富んだ話術で痛烈に批判します。

近著に、原爆ドームを主人公にした「ドームがたり（未来への記憶）」があります。原爆からつながる原発政策にまで深い造詣のある詩人の言葉には大いに学ばされました。皆さんも是非、著作を読んでみては。

(事務:谷本 清信)



～はるか薬局緊急時電話番号～



**0154-31-7811**または  
**090-3775-3026**

夜間、日曜日等の閉店時で緊急の対応を要する場合にご利用下さい。



お知り合いの薬剤師・薬学生の方を  
ご紹介下さい 奨学金制度もあります

※詳しくは、あゆみ調剤までご連絡下さい。

**☎0154-31-7811**